

美術部 各誌に掲載

2010.12.15

美術部の地元商店街のシャッターに絵を描いている活動が、『滋賀報知新聞』、地域情報新聞『ヒノメイト』で取り上げられました。近々、びわこ放送の取材も受ける予定です。

▼地域情報新聞『ヒノメイト』第1037号 2010/12/12 発行

日野町をPR！ 日野高校美術部が活性化に協力

日野の顔となる作品がまもなく完成する「山田薬舗」



日野高校 二年生五人が、マツオ商店
美術部の学生 街地域の「山田薬舗」「市川呉
(三年生九人、 服店)の店舗シャッターに、

日野商人やシャクナゲの花
など、日野町をPRする絵の
書き込みを十一月中旬から
行っている。

これは商店主がシャッター
の降った商店は面白みがなく、
町民に喜んでもらえないかと
日野高校美術部に依頼したと
ころ、三年生を中心とした部
員が卒業記念にと、積極的に
受け入れたもので、放課後毎
日、午後四時頃から夜八時頃
まで製作している。

絵柄は美術部員と店主が
相談して決めたもの。寒さが
厳しくなった夜間ではあるが、
部員がシャッターに描く頑張
る姿から、熱いものが伝わっ
てくる。

見事な作品に完成しつつあ
ることから、「新しい依頼も
聞いている」と話した。三年
生にとっては多忙な時期だが
「思い出に残る」と熱心に
筆を走らせていた。

【山田】

商店街の活性化に若い力生かす！



シャッターに日野ゆかりの絵

日野高校美術部生徒が奮闘中

「寒さを忘れるくらい集中している」と語るのは、日野町松尾にあるマツオ商店街の店舗シャッターに絵を描いている日野高等学校美術部の生徒たち。

ひと筆に集中する2年生ら（日野町松尾の市川呉服店で）
シャッターが下りた商店街は面白みや活気に欠ける。まちのPRなまのど町民に喜ばれる生かし方を思案していた店主らが、日野高校美術部に相談を持ち掛けた。

美術部の生徒十四人（三年生九人、二年生五人）は、まず、シャッターに描く下絵づくりから始め、店主の細かい要望にもこたえ修正を繰り返しながら図案を完成させた。

二年生の部員は「市川呉服店」のシャッター右側の担当で、日野町の花であるホンシヤクナゲと曳山を描いている。部長の滝野優依さんは「普通の紙に描くのと違って難しい。永く残るものなので、よりきれいなものにしたいと何度か塗り直し、寒さも忘れるほど集中している」と話し、ホンシヤクナゲ本来の美しさを表現する。

一方、三年生は、市川呉服店のシャッター左側に描く着物姿

高校生活の思い出や地域を思う気持ちも絵に込める3年生ら（日野町松尾の山田薬舗で）



の優美な女性と「山田薬舗」のシャッター全面に描く凛々しい行商姿の日野商人と背景の綿向山を担当している。

前部長の清岡奈々

子さんは「初の試みでうまくできるか心配だったが、手探り状態の中でもみんな協力し

て進んでいる。自分たちの絵で恥ずかしくもあるけれど、やりがいがある。少しでも商店街の活性化につながれば」と、絵に込めた思いを語る。

生徒たちは、毎日、授業終了後に各店舗へ出向き、走り抜ける車両の冷たい風を受けながら午後八時頃までシャッターに絵を描き続けている。都合のつく日には土・日曜日にも集まり、今月中の完成を目指して筆を振る。